

「 家庭基礎 」 学習指導案	
単元	食生活を営む 使用教科書 家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)
指導の立場	<p>【教材観】 日本で暮らす多くの人が、食べたいものを食べたいときに好きなだけ食べることができる。一方で、世界では約8億人が飢餓状態にある。この食の格差には、私たちの生活のあり方も影響している。食生活は食べることだけではない。過剰な食品供給や、廃棄を前提とした経済の仕組みや生理的欲求のみに基づいた食品選択などの問題性に気づく必要がある。世界の現状に目を向けるとともに、自分の行動の重要性を認識し、行動する力をつけることはグローバル化した現状で、消費者市民としての能力を身に付けることにもなると考えられる。</p> <p>【生徒観】 教室のごみ箱を見ると、多くのパン・菓子のゴミがある。昼食時や就寝前に清涼飲料水を飲むという者や、嫌いなものは食べない・残す・捨てるという者も多い。栄養素についての知識はあっても、食欲に任せた食品選択をしている現状がある。高校生は身体づくりの重要な時期であるとともに、生涯をよりよく過ごすための基礎的・基本的な知識と技術を身に付ける学校教育の最終段階である。個人としても地球の一員としても将来を見据えた食生活のあり方について考える必要がある。</p> <p>【指導観】 自分の食生活を振り返り、食品購入から調理、食事において、持続可能な社会を構築するために必要な食生活のあり方について理解できるようにする。世界の飢餓をなくす方法を考えることで、自分の食生活と世界の食とのつながりを認識させたい。また、毎日欠かすことのない食の営みを通じて自分にできることがあることを知ることで、世界の課題を自分ごととして捉え、行動につなげる姿勢を育みたい。</p>
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の食事が健康と深く関わっていることを理解している。 ・ 主体的に食生活を営むために必要な情報を収集し、行動に移すことができる。 ・ 食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる。 ・ 自分や家族の健康及び環境に配慮した食生活の在り方について、課題解決に向けて考え工夫しようとしている。

単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
現代の食生活の傾向と問題点について考え、改善に向けて知識と技術を身に付けようとしている。	自分や家族の健康及び環境に配慮した食生活の在り方について、課題解決に向けて考え工夫しようとしている。	食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる。主体的に食生活を営むために必要な情報を収集・整理することができる。	毎日の食事が健康と深く関わっていることを理解している。

単元の指導計画及び評価規準

時数	主な指導内容・ 学習内容	評価規準	評価の観点				評価方法
			関	思	技	知	
1	「食べる」とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期における毎日の食事の重要性、食事の意義について理解している。 ・ 自身の食生活を振り返り、生涯の健康を見据えて改善しようとしている。 	○			○	ポートフォリオ
6	栄養・栄養素と食品 炭水化物 脂質 たんぱく質 無機質 ビタミン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養の特徴や食品の栄養的特質について理解している。 ・ 自己の食生活の課題及び改善方法を考えることができている。 		○		○	ポートフォリオ
1	食生活の設計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養的にバランスのとれた食事計画を立てることができる。 			○		ポートフォリオ
1	食品の選び方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康や安全・環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫しようとしている。 	○	○			ポートフォリオ
1 (本時)	これからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食に関する世界規模の課題を認識し、地球の一員として行動する必要性を理解する。 ・ 資料を参考に自分にできる行動を具体的に考えることができている。 		○		○	ワークシート ポートフォリオ

8	日常食の調理 (調理実習4回)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の調理上の性質を理解する。 ・食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる。 			○	○	実習レポート
---	--------------------	--	--	--	---	---	--------

本 時 案

主題	これからの食生活 ～自分の食・世界の食を考える～						
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する世界規模の課題を認識し、地球の一員として行動する必要性を理解する。 【知識・理解】 ・資料を参考に自分にできる行動を具体的に考える。 【思考・判断・表現】 						
	学習活動	指導上の留意点	時間	評価及び備考			
導入	1 本時の学習内容を知る	<ul style="list-style-type: none"> ○本時は食生活について地球規模で考えることを知らせる。 ・自身の食に対する意識を確認させる。 	3	ポートフォリオ ワークシート			
	2 飢餓の現状について把握する	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の飢餓状況について認識させる。 ・世界では約8億人が飢餓状態にあることを確認する。 ・【資料1】を見て飢餓人口が発展途上国に集中していることに気づかせる。 	10	ワークシート 【資料1】ハンガーマップ			
展開	【発問】 どうすれば世界中の人をお腹いっぱいに行けるだろう？						
	3 ゼロ・ハンガー・チャレンジを考える	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の飢餓状況改善に向けて自分にできることを考えさせる。 ・日常生活や他教科の学習を参考に個人で考えさせる。 ・【資料2】を視聴し視野を広げる。 ・グループで意見を深めさせる。 ・【ヒントカード】をもとに思考を発展させる。 ・グループごとに最善の案を発表シートに記入し発表する。 	30	ワークシート 【思考・判断・表現】 【資料2】SDGs TV 動画 「飢餓をなくす5つの目標とは？」 【ヒントカード】 ①技術支援（生産～流通～保存） ②日本の食品ロス ③テーブル・フォー・ツア 上記と合わせて生徒から ・食料自給率 ・フェアトレード商品			

まとめ	4 本時のまとめをする	<p>○自分の食生活と世界の食とのつながりを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の食に対する意識を再確認させる。 ・本時の学習内容を自分の言葉でまとめさせる。 ・食に対する知識を今後の生活で行動に移してもらいたいことを伝える。 	7	<p>ワークシート</p> <p>ポートフォリオ</p> <p>【知識・理解】</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
-----	-------------	---	---	---

本時の評価

本時の学習活動に即した評価規準	おおむね満足できる状況	評価方法
<p>食に関する世界規模の課題を認識し、地球の一員として行動する必要性を理解している。【知識・理解】</p> <p>資料を参考に自分にできる行動を具体的に考えることができている。【思考・判断・表現】</p>	<p>世界の現状と自分の食生活とのつながりに基づき、自分の食生活を主体的に営む必要性について記述している。</p> <p>そのための具体的な方法・行動について考えることができている。</p>	<p>ポートフォリオ</p> <p>ポートフォリオ・ワークシート</p>